

古典の風景

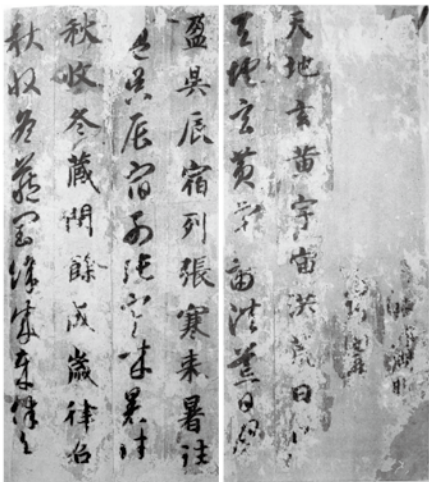
題字：目良丹崖

〔筆者略歴〕
伊藤 滋 いとうしげる（書齋名・木鶏室）
昭和二十一年福井県に生まれる。
東京学藝大学書道科卒業。
同大学大学院社会科（東洋史）修了。
中国書道史・碑法帖研究 碑法帖拓本の収集・鑑蔵を行う。
東京学藝大学非常勤講師
淑徳大学オープンカレッジ講師。

正倉院に伝来した 書の手本『真草千字文』

伊藤 滋

古代の歴史を記した『古事記』によれば、三世紀頃に「王仁が百済から『論語』や『千字文』を携えてきた」とある。六世紀頃になり、金属などに刻された文字が見られるようになります。『千字文』をはじめとして、文字学習や書道のお手本の最も古いものは、どのようなものが伝来するのでしょうか。奈良・正倉院に千年の永きにわたり伝えられた宝物は、天平時代の文化遺産の第一のものです。この聖武天皇の遺品を記した『東大寺献物帳』（756年）に、当時の書の手本が記録されています。（図②）有名な光明皇后の書と伝えられる『楽毅論』の後に、「書法二十卷」として、「攝晋右將軍王羲之草書卷一」とあり、同じような記述が実に端正な見事な楷書で丁寧に書かれ、二十項目挙げられています。「攝晋



図①：真草千字文

右將軍王羲之草書卷一」の意味は、「攝」は摹写（コピー）の意であり、「晋右將軍王羲之」は、あの『蘭亭序』を書いた書聖・王羲之を指します。解りやすく言えば、書聖・王羲之の草書を摹写（書き写）したものであることを意味しています。本文の下に小さな文字で二十五行と注記があります。列記された二十件は、すべて王羲之の書であり、すべて書き写したものです。多くが草書体であるが、行書と記すものが二件あります。ところが、その中の「巻第五十一」の下に「真草千字文 二百三

行」と書かれています（図②）。聖武天皇の遺品の中に『真草千字文』が伝えられていたのです。これら王羲之を中心とする手本は、当時の遣唐使などが将来したものと想像されます。しかし現在ではこれら二十件すべては、正倉院には伝えられていません。今回から皆さんの臨書課題である『智永・真草千字文』（図①）は、千数百年前に書かれた『東大寺献物帳』に記載された正倉院伝来のものと考えられています。この『真草千字文』は、当時の記録では王羲之とされていますが、王羲之の書ではありません。また模写されたものでなく、筆で書かれたものです。楷書と草書の二体で書かれています。日本に伝来する最古にして、最良の書の手本の一つです。



図②：東大寺献物帳（国家珍宝帳）部分・未行部分拡大

平成二十三年年度編集担当ご挨拶

景気低迷で重い空気の中、サッカー日本代表がアジア大会で優勝をなし遂げ、平成二十三年が明るい幕開けとなり、アグレッシブ（積極的）な中にも温もりあるチーム・選手から力を得、和の大切さを教えられました。

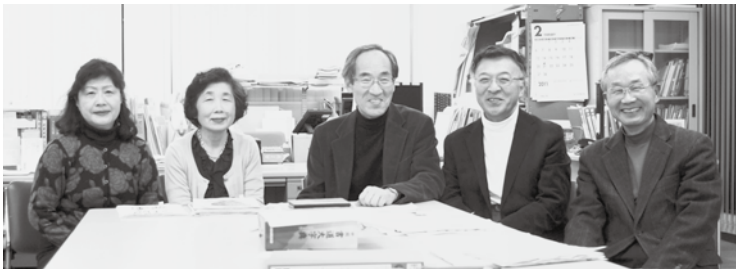
地道な基本の修練を日々積み重ねてのこの結果であろう。書道もスポーツに通ずることが多くあります。奥の深さを求め、打ち込んでいる他の分野の人からも学んでいきたいものです。

本院の目指す書の道は、古典の名作の語るものを享受すべく、地道な修練を積んでいくことであります。その表現力、鑑賞力を育んでいく場が全書芸誌です。

六十年継承されてきたものを大切にし、更に充実発展していく一助となるよう、また多くのサポーターを得るよう編集にあたっていききたいと考えております。

担当する下記の五名精一杯つとめていく所存であります。役員、支部の先生方、会員の皆様のご教示、ご支援をお願い申し上げます。

平成二十三年三月



全日本書芸文化院
平成二十三年年度編集担当

目良丹崖
増子総洋
黒田祥園
水越幽峰
後藤菁雨

お詫びと訂正

三月号において記述に誤りがありましたので訂正させていただきます。
誤「六五〇円」 → 正「一、一五〇円」
ご迷惑をおかけした会員の皆様ならびに関係各位には深くお詫び申し上げます。

編集後記

○六十年の歴史を積み、新たな気持ちで歩を進める辛卯の年、文字としての原点である甲骨文を表紙にいたしました。

○表紙裏は、碑法帖の研究をされている伊藤滋先生に、古典の文字の有している豊かで深い情趣を探访していただく「古典の風景」を執筆していただきます。ご期待下さい。

○第六十二回全国書初大会が雪の降る中ではありましたが、盛況に開催されました。文化の継承を考える一日でした。

○学書の友は、三年前途中までで切れておりました「書道用語」の後半を取り上げます。学書の参考になればと思います。

○昇段級試験の課題が発表されました。春の日ざしとともに準備をして下さい。素晴らしい秋を迎えるために。
（丹崖記）

平成二十三年三月十日 印刷
平成二十三年三月十五日 発行
代表 橘 崎 華 祥
編集者 堀 天 鶴
目良丹崖・増子総洋
黒田祥園・水越幽峰
後藤菁雨
発行者 岩 本 登
印刷 川井 写 真 製 版
全日本書芸文化院
東京都千代田区神田錦町一ノ十二
振替 〇〇一五〇一七二三五
電話 〇三（三三九四）三五五一
FAX 〇三（三三九一）一一三八
http://www.z-shogei.co.jp